

第51回自衛隊高級幹部会同 小野寺防衛大臣訓示

本日、最高指揮官である安倍晋三内閣総理大臣の御臨席の下、自衛隊高級幹部会同を開催できますことを誠に喜ばしく思います。

防衛大臣就任以来、私と共に日夜任務に精励し、支えてくれている諸君に対し、改めて敬意を表するとともに、防衛大臣として一言申し上げます。

10年前、防衛庁は、安倍総理の下で「防衛省」に移行いたしました。本日は、防衛省・自衛隊を指揮監督された歴代の防衛大臣の皆様にも御臨席をいただいております。ありがとうございます。省移行後の10年、防衛省・自衛隊は、歴代大臣の指揮の下、東日本大震災などの大規模災害や、弾道ミサイル発射などの各種事態に全力で対応してまいりました。

一方、我が国を取り巻く安全保障環境は、10年前と比較し、格段に厳しさを増しています。今月3日、北朝鮮は、過去に比べはるかに出力の大きい6回目の核実験を実施しました。また、8月29日には弾道ミサイルを予告なく発射し、我が国上空を通過させており、北朝鮮の核・ミサイル開発は、重大かつ差し迫った、新たな段階の脅威となっています。

また、中国は、海洋活動の拡大にみられるように、既存の国際秩序とは相いれない独自の主張に基づき、力による現状変更の試みを継続しており、地域や国際社会の安全保障環境に与える影響について強く懸念されています。

こうした厳しい安全保障環境において、国民の生命と財産、領土・領海・領空を守り抜くためにも、我が国の安全保障政策をさらに力強く前に進め、必要な防衛体制を整えなければなりません。政策遂行の重責を担う高級幹部諸君を前に、今後取り組むべき課題について申し上げたいと思います。

まず、安全保障政策の根幹となる、自らの防衛力整備について、申し上げます。

これまで、防衛省・自衛隊は、国家安全保障戦略、防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画に基づき、統合機動防衛力の構築を着実に進めてまいりました。

他方、更に厳しさを増す安全保障環境下にあつて、国民の命と平和な暮らしを守り抜くことができるのか。在るべき防衛力の姿はいかなるものか。我々は不断に問い続けなければなりません。

防衛大臣に就任するにあたり、安倍総理からは、防衛大綱の見直しと次期中期防の検討を行うよう指示を頂きました。幹部諸君におかれては、安全保障上の数々の課題に加え、部隊運営上の課題も的確に把握し、実効的な防衛力を整備できるよう、省内・政府部内での議論をリードしてもらいたいと思います。

ここで、弾道ミサイル防衛能力の向上について申し上げたいと思います。

私は、着任式当日、ここ市ヶ谷でP A C - 3の展開状況を視察する機会を得ました。また、先月23日には、日本海の洋上で警戒監視に当たるイージス艦を視察し、乗組員を直接激励することができました。こうした最前線において、隊員たちは今、絶え間ない緊張感をもってたゆむことなく任務に当たっております。

一方、刻々と能力向上をはかる北朝鮮の弾道ミサイルの脅威に対し、我が国として総合的な能力向上をどのように図っていくべきか。その検討は、我々、安全保障政策の立案担当者に突きつけられた喫緊の課題でもあります。

この課題に対し、私は、イージス・アショアを中心に新規アセットの導入を行いたいと考えており、最速のペースで導入できるよう取り組んでまいりたいと考えます。その際、今後の防衛力全体にお

ける位置づけや効率的な体制などをしっかりと検討する必要がある、関係部局が連携して早急に検討を進めていただきたいと思います。

次に、日米同盟の強化について申し上げます。先月、私は、日米「2+2」に参加し、また、マティス国防長官との日米防衛相会談を実施いたしました。北朝鮮の挑発が続く中、マティス長官とは電話会談も繰り返し行っているほか、戦略軍司令官、太平洋艦隊司令官など主要な米軍司令官とも会談を重ね、日米間の緊密な連携を図っております。

一連の会談の中で、米側は、核を含むあらゆる種類の軍事力を用いて日本を守るとの強いコミットメントを重ねて示しており、米国の拡大抑止への信頼性は、かつてないほど明確かつ強固なものとなっています。

これも平和安全法制の整備をはじめとする数々の安全保障政策を推進してきた成果であり、隊員諸君におかれても、日米共同訓練など、さまざまな目に見える具体的な取り組みを進め、ガイドラインの実効性を確保し、日米同盟の抑止力・対処力の強化に努めてほしいと思います。

同時に、日米同盟の抑止力を維持しつつ、沖縄をはじめとする地元の基地負担軽減のための取組も重要です。私は、沖縄返還時にちょうど日本におられたというマティス長官に対し、当時発生した悲惨な事故の事例も思い出して頂きつつ、負担軽減への協力と米軍再編の推進を求めてまいりました。我が方においても、地元の声に真摯に耳を傾け、一層の努力をしてまいりたいと思います。

次に、安全保障協力の推進について申し上げます。近年、防衛省・自衛隊は、オーストラリア、インド、アセアン諸国、英国やフランスなど、基本的価値や安全保障上の利益を共有する多くの国々との防衛協力・交流を着実に拡大してまいりました。今後とも、共同訓練や装備・技術協力などの取組を、戦略的に推進してほしいと思います。

また、ジブチを拠点として実施している海賊対処行動は、海洋国家たる我が国にとって重要な海洋の安全確保のための取組です。国際社会の平和と安定に貢献していくことは、我が国の重要な責務であり、今後とも、積極的平和主義に基づき、国際活動に積極的に取り組んでまいります。

次に、南スーダンPKOの日報問題について申し上げます。この問題により、国民の皆さまから大きな不信を招く結果となり、防衛大臣として改めてお詫び申し上げたいと存じます。

問題の根底にあったのは、防衛省・自衛隊において、国民に対する情報公開の重要性に対する認識が不十分であったこと、また、関係部局の意思疎通が十分になされなかったことです。

安倍総理からは、再発防止を徹底し、国民の信頼回復に向けて全力で取り組むよう指示をいただきました。

現在、日報の取り扱いをはじめ、情報公開、文書管理について再発防止策を進めておりますが、諸君におかれては、これらの施策を徹底するとともに、隊員の意識改革を促し、風通しのよい組織文化の醸成や、部局間での一層の連携強化を図り、二度とこのような問題が起こらぬよう取り組んでいただきたいと思います。

最後に、最近の事故やサービス事案について申し上げます。先月だけで、自衛隊のヘリコプターに係る3件の大事故が発生しました。今も行方不明者の捜索が続いている事故もあります。

事故原因についてはそれぞれ調査が進められておりますが、隊員が懸命に任務や訓練に当たる中、装備品の整備状況に問題がないか、常に意識しておかなければなりません。また、長時間にわたって訓練を重ね、技量を磨き上げたベテランのオペレーターであっても、慣れによる少しの油断が大きな事故につながります。事故によって仲間の隊員の命が失われることほど、悲しく、悔しいことはありません。

私もできる限り部隊を訪問し、実情把握に努めたいと思いますが、日々、部隊を指揮する幹部諸君におかれては、常に現場の状況を把握し、厳しい任務や訓練の中にあっても、決して安全の確保を軽視せず、事故ゼロを目指して不断の努力を続けていただきたいと思います。

また、最近、大変残念なことに、隊員が犯罪を犯したり、服務規律に違反する事案も多くみられます。一人の軽率な行いが、仲間の築き上げてきた自衛隊への国民の信頼をすべて損なうものとなり、このようなことはあってはならない、恥ずべき行為です。幹部諸君に置かれては、服務の面においても日々指導に意を用いてほしいと思います。

「規律こそが軍の魂である。規律こそが少ない兵士を強くし、弱い者に成功をもたらし、皆に敬意を抱かせるのだ」

アメリカ独立戦争の総司令官で、後に初代アメリカ大統領となったジョージ・ワシントンは、隷下の指揮官たちにこう訓示しました。

自衛隊が、その実力を最大限に発揮して任務を遂行するためには、国民の支持と信頼を勝ち得ることが必要不可欠であり、そのために常に規律正しい存在であることが今、何よりも求められています。

高級幹部として部隊・機関を指揮する諸君におかれては、隷下の隊員たちに対し、規律正しくあるべきことの重要性について、常に身をもって範を示されんことを、強く期待いたします。

私自身、本日、総理の訓示を頂き、今こそ全身全霊をもって自らの職務に当たるべき時との思いを一層強くいたしました。隊員諸君におかれても、安倍内閣総理大臣の指揮の下、我が国と世界の平和のため、「今がその時」との思いをもって任務に一層奮励努力されることを切に望み、私の訓示といたします。

平成29年9月11日
防衛大臣 小野寺 五典